

日本風景街道大学 宮崎本校

講評にかえて

世の中、動いています

2023.9.4

日本風景街道コミュニティ 代表理事

石田 東生



新たな国土形成計画(全国計画) 原案(概要)

新たな国土の将来ビジョン

計画期間：2050年さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間

時代の重大な岐路に立つ国土《我が国が直面するリスクと構造的な変化》

地域の持続性、安全・安心を脅かすリスクの高まり

- 未曾有の人口減少、少子高齢化がもたらす地方の危機
- 巨大災害リスクの切迫(水災害の激甚化・頻発化、巨大地震・津波、火山噴火、雪害等)
- 気候危機の深刻化(2050年カーボンニュートラル)、生物多様性の損失

コロナ禍を経た暮らし方・働き方の変化

- テレワークの進展による転職なき移住等の場所に縛られない暮らし方・働き方
- 新たな地方・田園回帰の動き、地方での暮らしの魅力

激動する世界の中での日本の立ち位置の変化

- DX、GXなど激化する国際競争の中での競争力の低下
- エネルギー・食料の海外依存リスクの高まり
- 東アジア情勢など安全保障上の課題の深刻化

豊かな自然や文化を有する多様な地域からなる国土を次世代に引き継ぐための**未来に希望を帯びる国土の将来ビジョン**が必要

目指す国土の姿「新時代に地域力をつなぐ国土 ～列島を支える新たな地域マネジメントの構築～」

デジタルとリアルな融合による

活力ある国土づくり

～地域への誇りと愛着に根拠した地域価値の向上～

巨大災害、気候危機、激化する国際情勢に対応する

安全・安心な国土づくり

～災害等に晒さないしなやかで健い国土～

世界に誇る美しい自然と多彩な文化を育む

個性豊かな国土づくり

～森の国、海の家、文化の国～

国土づくりの戦略的視点 ①民の力を最大限発揮する官民連携 ②デジタルの徹底活用 ③生活者・利用者の利便の最適化 ④縦割りの打破(分野の垣根を越える横断の発想)

※南北に細長い日本列島における国土全体での連結強化

※広域レベルからコミュニティレベルまで重層的な圏域形成

国土構造の基本構想「シームレスな拠点連結型国土」

デジタルの徹底活用による場所や時間の制約を克服した国土構造への転換

〈広域的な機能の分散と連結強化〉

- ◆ 中核中核都市等を核とした広域圏の自立的発展、日本海側・太平洋側二面活用等の広域圏内・広域圏間の連結強化を図る「全国的な回廊ネットワーク」の形成
- ◆ リニア中央新幹線、新東名・新名神等により三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成による地方活性化、国際競争力強化

〈持続可能な生活圏の再構築〉

- ◆ 生活に身近な地域コミュニティの再生(小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生)
- ◆ 地方の中心都市を核とした市町村界にとらわれない新たな発想からの地域生活圏の形成

- 東京一極集中の是正(地方と東京のwin-winの関係構築)
- 国土の多様性(ダイバーシティ)、包摂性(インクルージョン)、持続性(サステナビリティ)、強靱性(レジリエンス)の向上

デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成

- 「地方の豊かさ」と「都市の利便性」の融合
- 生活圏人口10万人以上を一つの目安として想定した地域づくり(地域の生活・経済の実態に即した市町村界にとらわれない地域間の連携・補完)
- 「共」の視点からの地域経営(サービス・活動を「兼ねる、束ねる、繋げる」発想への転換)
 - ✓ 主体の連携、事業の連携、地域の連携
- デジタルの徹底活用によるリアルな地域空間の質的向上
 - ✓ デジタルインフラ・データ連携基盤・デジタル社会実装基盤の整備、自動運転、ドローン物流、遠隔医療・教育等のデジタル技術サービスの実装の加速化
 - ✓ 地域交通の再構築、多世代交流まちづくり、デジタル活用を含めたリアル空間での利便性向上
- 民の力の最大限活用、官民パートナーシップによる地域経営主体の創出・拡大

相互連携による相乗効果の発揮

持続可能な産業への構造転換

- GX、DX、経済安保等を踏まえた成長産業の全国的な分散立地等
- 既存コンビナート等の水素・アンモニア等への転換を通じた基幹産業拠点の強化・再生
- スタートアップの促進、働きがいのある雇用の拡大等を通じた地域産業の稼ぐ力の向上 等

グリーン国土の創造

- 広域的な生態系ネットワークの形成、自然資本の保全・拡大、持続可能な活用(30by30の実現、グリーンインフラの推進等を通じたネットワーク化)
- カーボンニュートラルの実現を図る地域づくり(地域共生型再エネ導入、ハイブリッドダム等) 等

人口減少下の国土利用・管理

- 地域管理構想等による国土の最適利用・管理、流域治水、災害リスクを踏まえた住まい方
- 所有者不明土地・空き家の利活用の円滑化等、重要土地等調査法に基づく調査等
- 地理空間情報等の徹底活用による国土の状況の見える化等を通じた国土利用・管理DX 等

新しい資本主義、デジタル田園都市国家構想の実現

地域の安全・安心、暮らしや経済を支える

国土基盤の高質化

- 防災・減災、国土強靱化、生活の質の向上、経済活動の下支え
 - ✓ DX、GX、リダンダンシー確保、安全保障、自然資本との統合等の観点からの機能高度化
 - ✓ 賢く使う観点からの縦割り排除による複合化・多機能化・効果最大化
- 戦略的マネジメントの徹底によるストック効果の最大化
 - ✓ 地域インフラ群再生戦略マネジメント等の戦略的メンテナンスによる持続的な機能発揮

地域を支える人材の確保・育成

- 包摂的社会に向けた多様な主体の参加と連携
- こども・子育て支援、女性活躍
- 関係人口の拡大・深化

分野別施策の基本的方向

- 地域の整備(コンパクトネットワーク、農山漁村、条件の厳しい地域への対応等)
- 産業(国際競争力の強化、エネルギー・食料の安定供給等)

- 文化及び観光(文化が育む豊かで活力ある地域社会、観光振興による地域活性化等)
- 交通体系、情報通信体系及びエネルギーインフラ

- 防災・減災、国土強靱化
- 国土資源及び海域の利用と保全(農地、森林、健全な水循環、海洋・海域等)
- 環境保全及び景観形成

計画の効果的推進

広域地方計画の策定・推進

- 地理空間情報等を活用したマネジメントサイクルと評価の実施
- 広域地方計画協議会を通じた広域地方計画の策定・推進

国土の刷新に向けた重点テーマ

地域生活圏とモビリティ・道路



地域生活圏の形成

デジタルとリアル融合、10万人以上の生活圏、市町村にとられない

「地域生活圏」の形成で変わる地域の姿(イメージ)

地域をつなぐ持続的なモビリティ社会の実現

地域公共交通のR・デザイン

交通手段が重複 ネットワークの統合 エリア一括協定運行



交通DX・GXや、地域の関係者との共創を通じ、地域公共交通ネットワークの利便性・持続可能性・生産性を向上
⇒地域公共交通特定事業実施計画の認定:2027年度までに300件

自動運転



地域限定型の自動運転移動サービスの実現

⇒50か所程度(2025年度目途)、100か所以上(2027年度まで)

※デジタル活用では解決できない地域課題に対しても、地方創生の一層の取組強化を図る。



デジタル・ガバメントの推進

- ◆ 基幹業務等のシステムの統一・標準化、行政手続のオンライン化、マイナンバーカードの普及・利用促進等
- ◆ 「書かないワンストップ窓口」の横展開

デジタル基盤の整備・活用

- ◆ 5G、光ファイバ等のデジタルインフラ、データ連携基盤
- ◆ 自動運転・ドローン物流等の実装を支えるデジタルライフライン(センサー、乗換え・積替え拠点等)

遠隔医療



住民に身近な場所を活用した遠隔医療

⇒国の補助事業により遠隔医療を実施する医療機関:235件(2023~2027年度累計)

まちでも中山間地域でもデジタル活用で安心・便利な暮らし

「デジ活」中山間地域



スマート農業、ドローン物流等を組み合わせたプロジェクトを実現
⇒2027年度までに全国150か所以上

多世代交流まちづくり



居心地が良く歩きたくなるまちづくり、建築・都市のDX
⇒2027年度までに3D都市モデルの整備都市500都市

転職なき移住・二地域居住等



テレワークの普及等による地方への人の流れの創出・拡大、空き家等の活用促進

地域を支える人材の確保・育成

包摂的社会、こども・子育て支援、女性活躍、関係人口の拡大・深化

新たな発想からの地域マネジメント

- 「共」の視点からの主体・事業・地域間の連携 (官民パートナーシップによる地域経営)
- デジタルの徹底活用による地域空間の質的向上

「地方の豊かさ」と「都市の利便性」の融合 → 全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会 20

残得ながら実地域での具体的展開は進んでいない

市町村境界に捉われない

→風景街道は捉われていない

デジタルに押されている

→リアル・実生活・生業が頑張る

道路とモビリティと地域

大きな道路と小さなみち

道路とモビリティサービス

多様なモビリティ、地域へのアクセス

大きな道路

高規格道路ネットワーク 24000km

小さなみち

生活道路 安全・安心、子育て

賑わい道路 都心、観光地

風景街道、シーニックハイウェイ

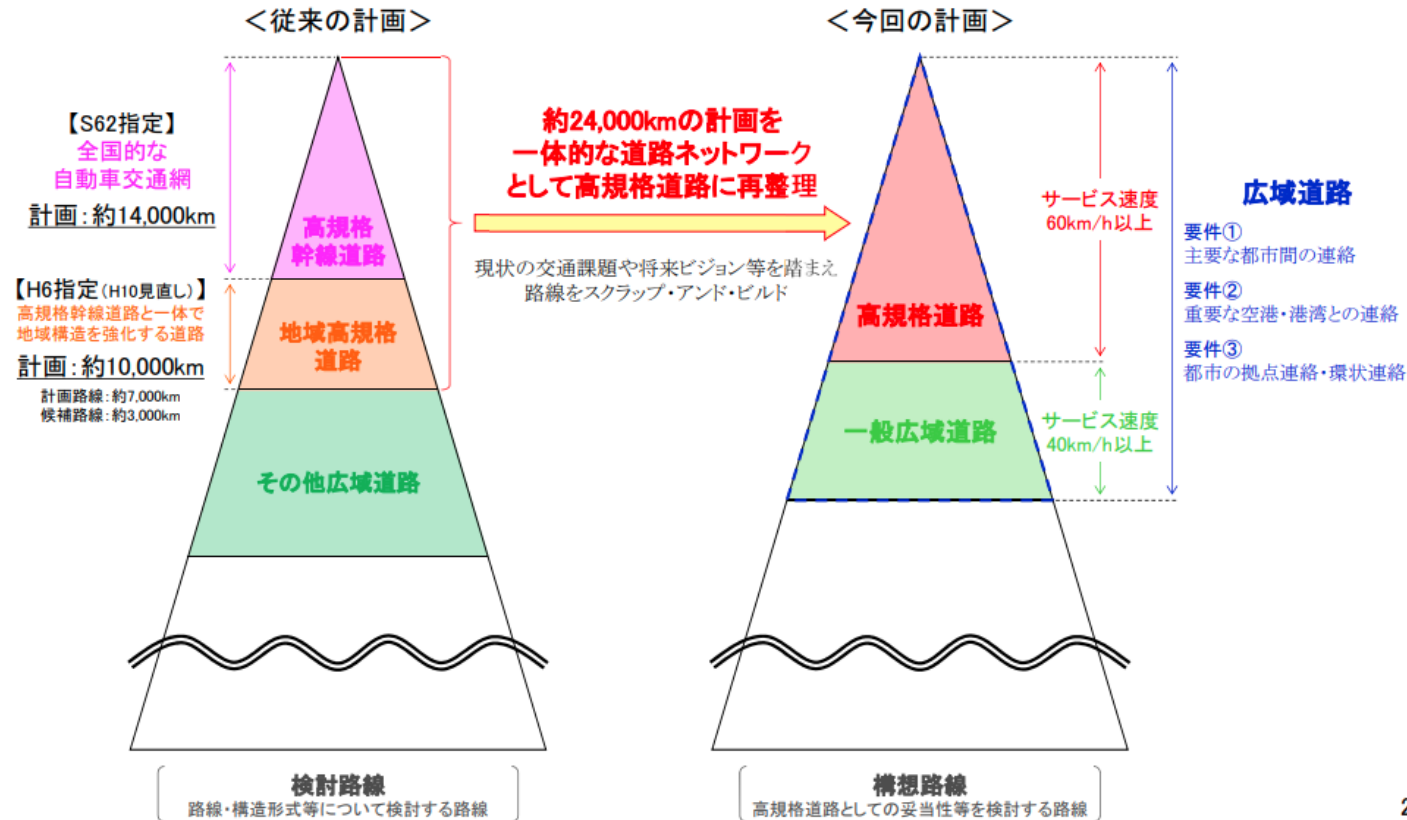
小さなみちの大きな議論

高規格道路の提唱



従来 14000kmの高規格幹線道路
10000kmの地域高規格道路

これから 24000kmの高規格道路に再整理
サービス速度60kph以上
主要都市間
重要な空港・港湾
都市の拠点連絡・環状道路



政治家の関心はリアルでも
大きな道路中心

幹一枝一葉が3つとも重要

光合成をおこなうのは葉
細胞につながっているのは毛細血管
地域公共交通のリ・デザインの基本的考え

ハイウェイとバイウェイのよいバランス
風景街道の目指すもの

整備手法・主体の議論はこれから

経済産業省の提案 デジタル全総



総理の御指示を受け、デジタルライフライン全国総合整備実現会議を立ち上げ

すごいスピードで
決まっていく
1回あたりの発言は
2-3分に制限
政治日程で決まっていく

懸念
リアルよりもデジタル
リアルをやらさない
ためのデジタル

※当面は、アーリー
ハーベストプロジェクト、横断領域の
アーキテクチャ及び
スタートアップに関
するWGを設置

...



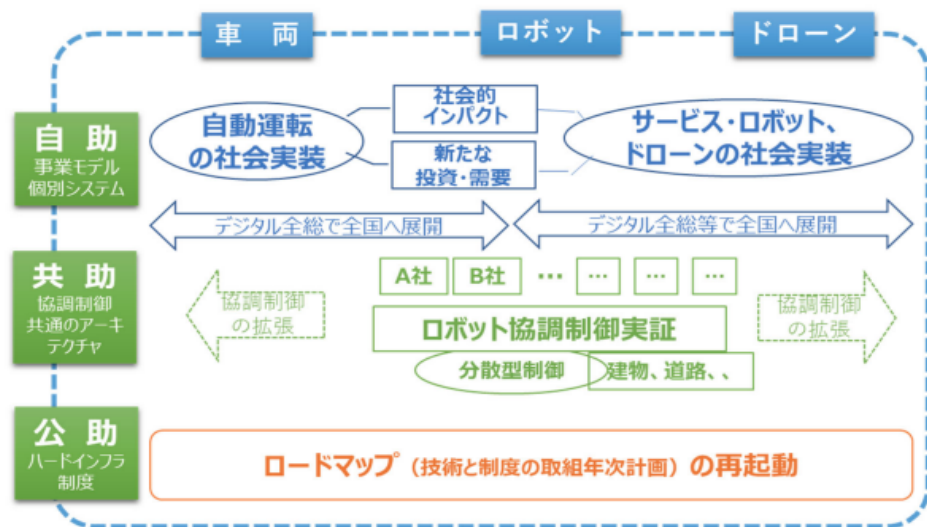
デジタル社会推進会議の下に**モビリティWG**を設置し、実現化を目指す

範囲をスマートモビリティにまで拡張して、毎年閣議決定されていた「官民ITS構想・ロードマップ」と同等以上の司令塔機能

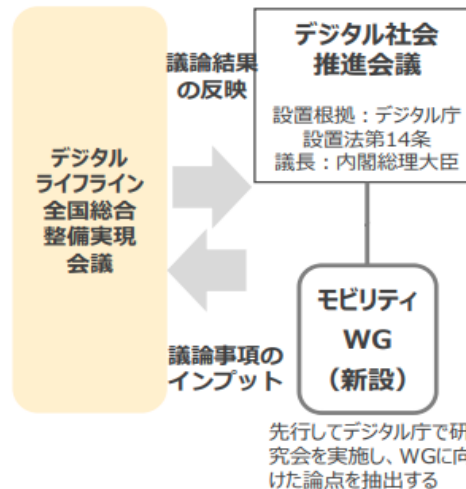
デジタルライフライン全国総合整備計画の実現に向けて

- 自動運転車両、ロボット、ドローンをトータルにモビリティとして捉え、移動需要に対する新たなモビリティ政策を検討していくことが必要。
- 自動走行等の全国展開に当たっては、単なる実証ではなく社会実装につながるよう、個別事業の持続可能性を担保するための要件（社会的インパクトや、新たな需要・投資の明確化、必要なKPI）を明確化することが必要。
- デジタル社会推進会議の下に**モビリティワーキンググループ**を設置し、デジタルライフライン全国総合整備実現会議と連携して、2023年度（令和5年度）中を目途に「モビリティ・ロードマップ（仮称）」を取りまとめる。

■ 各省横断的なモビリティ政策のフィールド



■ 検討体制



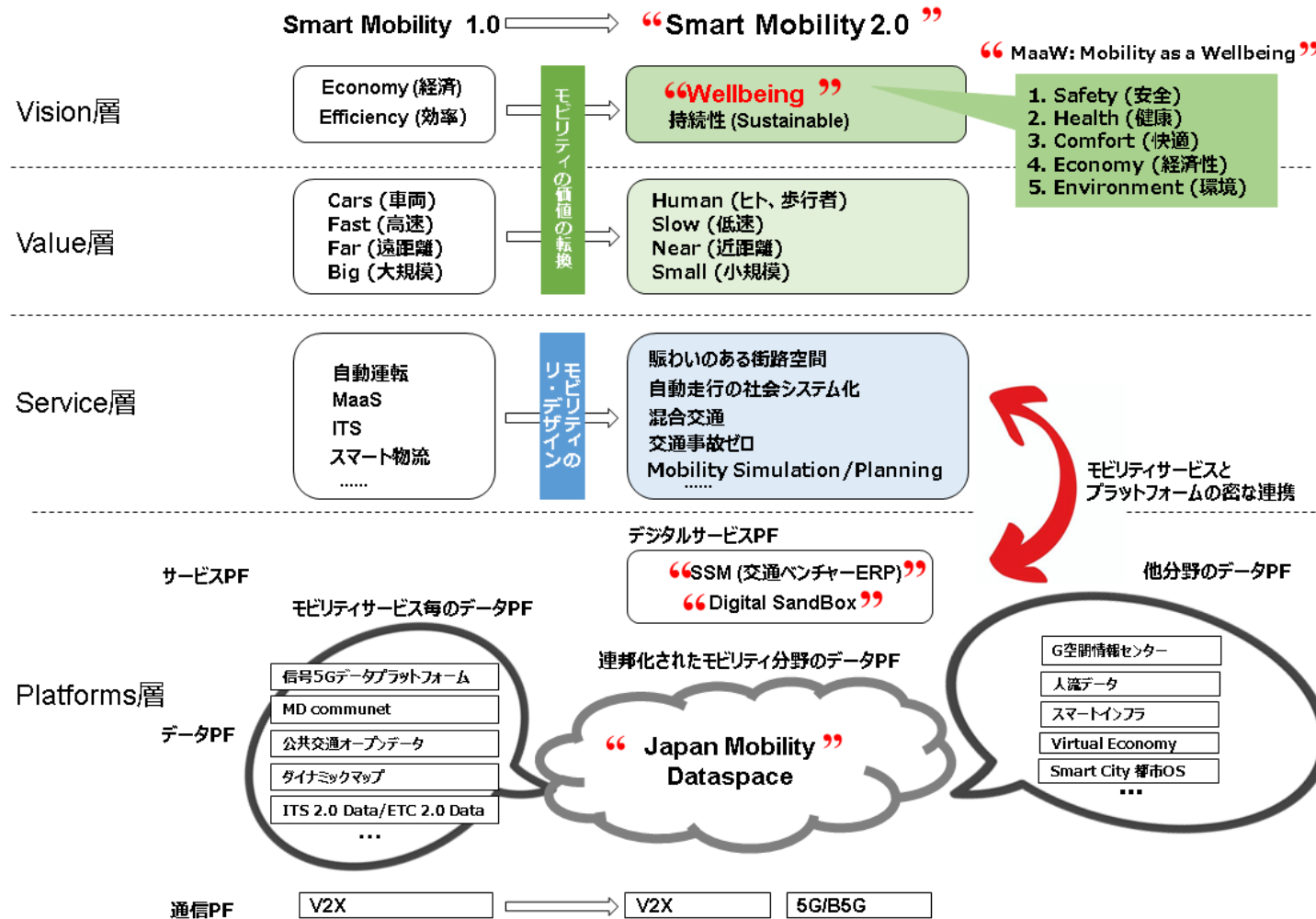
閣議決定に至る
合意形成・体制が組めるか

デジタル・サイバーが優勢？
L4、サービス・ロボット、ドローンを
支えるPFを共通化
新しいインフラのアピール

SIP スマートモビリティプラットフォームの構築



SIP 戦略的イノベーション誘導プログラム（今年度予算300億）の課題の一つ PD: 石田東生
自由に自立して安全・快適に環境・他人・まちに優しく皆が、モノが、サービスが移動できるモビリティディバイドない社会



純技術(ハイテク)
経済価値・効率性
スピード、省人、..



人・幸せ
Well-being
持続・環境
安全・健康

支える
Mobility Dataspace
Shared Service for Mobility
Digital Sand Box

- 国も早いスピードで動いている。民間はさらに早い。インフラ、リアルは押し込まれている(国交省 頑張れ!!)。
- 日南からの報告、田中さんの報告は共有すべき**実例**として重要

- **実例とモデル**

- もともとピカソの言葉
 - ピカソの膨大なアフリカ彫刻のコレクションに対して
 - 「これらはモデルではなく、実例なのだ」
- レヴィ=ストロースの解釈
 - モデル： 真似をする対象。完成度は高い。
 - 実例： 伝統は異なったやり方で、美的な表現の可能性を探ってゆくときの励ましとする手がかり

**強い志、大きな希望をもって、地域を超えて連携し勇気をもって挑戦し、
それを実例として共有しましょう。みんなで前へ!!
来年、明るく元気に再会しましょう。**